



ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2014年11月1日

11月号・第154号

奈良・人と自然の会

会長 藤田 秀 憲

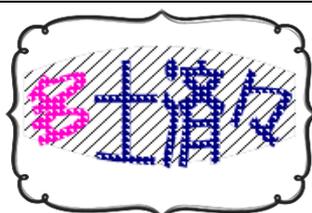


Contents



URL <http://www.naranature.com>

多士済々.....	①	「鳥」シリーズ.....	⑫
Monthly Repo.ならやま.....	②	青垣春秋.....	⑬
里山の今.....	③	④ Galleryならやま.....	⑭
9・10月・月例研修会.....	⑤	⑥ 俳句百景.....	⑮
9・10月歴文研修.....	⑥	⑦ ⑧ 癒しの散歩道&ならやま茶論.....	⑯
自然教室チームだより.....	⑨	ならやまプロジェクトコンセプト(里山).....	⑰
秋のめぐみだ! お芋を掘ろう!.....	⑨	ならやまプロジェクト(11月).....	⑱
県景観サポーター実習.....	⑩	行事案内part1・2 & 奈良学クイズ.....	⑲ ⑳
生駒市「花と緑の楽校」講座.....	⑩	幹事会報告・新春講演会予告.....	㉑
やさしい病害虫講座⑦.....	⑪	ペン画に寄せて・申し合わせ・編集後記.....	㉒



なら山の軍師 鈴木 末一さん

顧問 川井 秀夫

この方とお会いしたのは、08年 私が会長職を辞し、阿部新会長就任の秋だったと記憶しております。その年の12月、例会行事で京都・山背街道を色々と雑談しながら共に歩いた記憶が甦ります。



一貫して教育畑で聖職に就き有名校の校長として尽力され、他方 野球部の部長として、晩年には高校野球連盟の要職を全うされて代表チームと共に外地へ遠征されたとお聞きしました。また、往時の父君はこのなら山の地権者でもあり、末一少年はこの山野でよく遊んだと懐かしく語られたものです。

異色の方が当会へ入会され、強力な助っ人として男らしい風貌に「毘沙門天」の降臨かと頼もしく思う衝撃的なものでした。程なく、奥様も入会され畑仕事のお手伝いをお願いし、夫唱婦随のお姿を微笑ましくお見受けしておりますが、鈴木さんのご紹介で近隣の方々、友人・知人の幾人かのご参加も、新戦力として頼もしく思っております。

私の在任中に、会の将来構想として、シニア色の偏重から市民色へと体質転換を密かに描いておりましたが、その魁として近在の方々のご支援は心強く、この集団の基盤強化の一翼として大きな礎になる事でしょう。

時と共に、農業経験を生かしたエコファームの設立、佐保自然の森オープニングの総指揮、会報誌の

編集長など、また、教え子の人脈を得て、文化活動の一貫となる修二会の内陣での鑑賞会、古社・奈良豆比古神社の翁舞の鑑賞、熊野詣の一泊研修会、平城宮跡の出土品に関わる古民家訪問、朱雀高校でのパソコン教室などなど、更には歴・文クラブのサポーターとして、「のらの会」の設営にもご協力頂き、七面六臂のご活躍に頭が下がります。

現在、なら山に近い法華寺町の自治会長も務められ、自前の大型耕運機、小型運搬車の貸与など、惜しみない助力にも、ただただ感謝の思いです。



私は、教育者の職業柄お堅い御仁だと思っておりましたが、聖俗併せ持つ幅広い人間性に心地良さを感じております。酒席では豊富な話題、歌もお好きでバリトンの声で艶歌がお得意、最近是我的俳句に触発されて新聞紙上に投句もされるとか

仏教の教語に「智慧」という言葉があります。「智識」は学問・理論の事ですが、智慧の「慧」は応用・創意を意味します。極端な例ですが、オウムのサリン事件などは、「慧」を誤った典型的な事例ではないでしょうか。鈴木さんの創造力には会報誌ひとつを見ても常に読者を楽しませる心が働いている様に思います。

最近、大河ドラマで晩年の官兵衛を観ておりますと、秀吉との応酬、足を引き摺る後姿に鈴木さんがオーバーラップ致します。(失礼)

なら山の軍師さん どうか、いつまでも爽やかに兵(つわもの) どもの牽引車として頑張ってください。

Monthly Rep ならやま

9月25日(木) 曇り一時雨 39名

気象台の雨予想の強調と早朝の降雨のため、メンバーの出足がくじかれた。第4テントの完成と、そこへの通路のバラス播きが完了。

里山林のナラ枯れ木の伐採。収穫時期を広げるために新たにダイコンの播種。ハクサイ・ダイコン幼苗の間引きと除草。第2駐車場とBCの除草。キンセンカの播種。トケイソウ花壇の整理。



10月2日(木) 晴れ 59名+28名

県の景観サポーター受講者に対し、樹木の伐採実習を指導。コスモスが満開、クリも収穫でき、ゆで栗を賞味。味噌汁サービスが始まり、1回目は男の料理メンバーが担当。近畿大学の北川先生が帰国後初めて学生とともに来られた。

景観サポーター実習で樹木と竹の伐採指導。里山林でのナラ枯れ木の伐採。立派なダイコンを期待して土寄せと間引き作業、ネギの移植。第5地区の除草、刃の切れ味が悪くて苦労したようだ。



水生生物調査。グラジオラス球根の掘り取り。

10月9日(木) 晴れ 53名

18日の芋ほりイベントに向け、子供達の散策コ

ースの下見と、安全対策の強化。佐保自然の森で枯死木の整理と草刈りを実施。オオスズメバチがミツバチの巣箱を強襲。

ならやま里山林のカシナガ被害度Ⅱの樹木の伐採を開始。ダイコン・ヒノナ・カブの間引き。ラッカセイの収穫。稲刈りに向け稲架け用の竹準備。キンセンカの苗床・湿地性花壇の除草。

10月16日(木) 晴れ 64名+1名

フジバカマに蝶のアサギマダラが飛来。18日、19日のイベントに向け、スタッフの役割分担の最終調整。シニア自然大学の実習生受け入れ。11月1日の「まごころプロジェクト」の開催に協力するため、工作材料の準備。

里山林のカシナガ被害木の伐採が順調に進み、伐採木の有効活用として薪割りも開始。チンゲンサイ・ナバナ・ミズナの苗の移植。ツルハシのお世話になりながらゴボウの収穫。鮮やかな紺色と粒が揃い豊作であったナスもシーズン終了となる。第5地区、BCの除草。水生生物調査ではエビが多い。コスモスの後始末と、湿地性花壇では周囲との区切りをつけるための囲い作り。

10月18日(土) 33名+58名

芋ほりイベントの実施。午前中は里山の散策、



パトロール班が中心となり、動植物に関する知識を子供達に伝授。午後はメインの芋ほり。

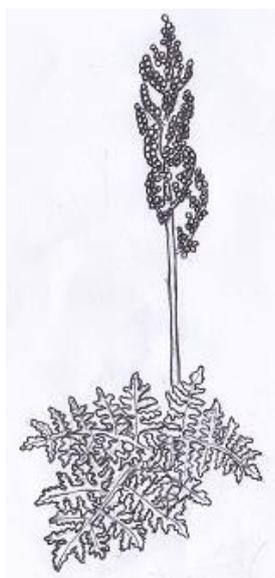
10月19日(日) 14名+18名

生駒市の「花とみどりの楽校」の受講生に対し、第5地区でスギの伐採実習。安全な倒し方と伐倒木の表皮剥きを指導。 (木村 裕)

ならやま花だより 山中箏子

10月16日(木)クヌギのどんぐりがコツーン、コツーンと音を立てて自転車道に落ちています。シバグリやアケビの実が、そして柿の実も橙に色づいて私達や鳥たちの目を引きつけます。

今年もならやまにフユノハナワラビが姿を見せてくれました。シダ植物なのに、まるで花が咲いているかのようです。(下の図)



*夏から秋にかけて栄養葉(三出羽状複葉)と孢子葉を一つずつ出す。直立しているのが孢子葉、下のが栄養葉で別々の茎が出る。

*孢子葉には丸い孢子嚢がびっしり、孢子散布後には枯れる。

*生育地は、栄養葉で十分に光合成するため、草があまり生えないか時々刈られ、人に踏まれない人里。まさに、

ならやまのもそういう場所でした。

【草花】ススキ、アメリカセンダングサ、ヨモギ、ヒメジソ、イヌコウジュ、ヤブマメ、ヤブツルアズキ、セイタカアワダチソウ、ザクロソウ、ヤブラン、チジミザサ、フユノハナワラビ、キツネノマゴ、ダンドボロギク、ゲンノショウコ、ミズヒキ、ヤブタバコ、イヌホオズキ、アキノタムラソウ、カナムグラ、ツリガネニンジン、ヌスビトハギ、アレチヌスビトハギ、ヒレタゴボウ、ミゾソバ、イヌタデ、ボントクタデ、イボクサ、ミズオオバコ、キクモ

【草の実】ツルアリドオシ

【木の花】フジウツギ、ナワシログミ、ハギ、コウヤボウキ、

【木の実】サルトリイバラ、ヒサカキ、クヌギ、シバグリ、シロシキブ、アオツツラフジ、ヤマウド、アケビ、ヌルデ、コシアブラ

【花壇】クジャクアスター、シュウメイギク、ホトトギス、フジバカマ、コスモス、キバナコスモス、ハマオモト、サンジソウ、キキョウ、ノコンギク、センニチコウ、ハナナス、ヒメツルソバ



ペタキン日記 30 羽尻 嵩

秋になって、湿地や溝に生い茂っていたミゾソバの花が咲いた。群生しているので花が咲くと一面が白と薄ピンク色に染まり、風情を生みだす。中心部は色が白く、花弁の先端は淡い紅色。花の形は金平糖に似ている。

「ミゾソバ」という和名は溝に生育し、葉の形がソバに似ているからとの意味だが、牛の額に似ていることから、別名「うしのひたい」ともいう。

一年生の草で、富栄養な水質の場所に生育し、水田地帯の用水路などに群生していることが多い。

タナゴ池周辺には例年にも増してミゾソバが繁茂したが、池の富栄養化を和らげて水質浄化の役割を果たしてくれていると思うと悪い気はしない。



さて、タナゴ池のペタキンの育種の状況だが、卵が孵化して、数はそこそこ増えたようだが、私が見る限り体長5mm前後のもので小物がほとんどだ。昨年も1昨年も秋までに、体長2~3cmのものが網やモンドリに何度もかかっていたのに・・・。

ペタキンの育種は3年目が過ぎていこうとしているが、まだまだわからないことが多い。

新しく見つかったチョウ

菊川年明

最近、今までにならやまで見かけなかったチョウが2種と、10年あまり見なかったチョウが1種、見つかった。これはもちろん「私が」ということではあるが。

新しく見付けたチョウはウラギンヒョウモンとオオウラギンスジヒョウモン、10余年目のチョウはミドリヒョウモンである。このうち、ウラギンヒョウモンとオオウラギンスジヒョウモンの2種は奈良県のレッドデータブックで希少種に区分されている。

ミドリヒョウモンの方はならやまのエリアではこの10年余見なかったが、近くの平城宮跡では珍しいチョウではない。この3種の幼虫の食草はいずれもスマレで、希少種の前2種はともかくとして、ならやまには野生のスマレがたくさんあるのにミドリヒョウモンが滅多に現れないのはどうしてかという疑念が生じる。

発見したウラギンヒョウモンは完全な姿をしていたが、オオウラギンスジヒョウモンの方は後翅の左右が同じ位置で欠けているので、翅を閉じて止まっているところを鳥に襲われ、食い切られたのではなかろうか。可哀相な姿であった。

私はならやまで昆虫観察を初めて15年ほどになる。此处で撮影したチョウはこの3種を加えて58種になった。市街地に近いこの狭いエリアで58種というのは誇ってよい数字ではなかろうか。
写真 上 ウラギンヒョウモン 下 オオウラギンスジヒョウモン



パトロール班Repo

木村宥子

9月から10月にかけてのパトロール班の活動は、10月18日の芋ほり大会の用意が主なものでした。

“ならやまの探検と昆虫クイズ”を担当することになっているので、その準備です。階段も整備をし、急なところにはトラロープを張り、草刈り、山班のご協力を得て倒木の処理もかなり丁寧にしました。

コースは5月のGGイベントと同じコース。4班に分けて引率して歩くのでパトロール班だけでは足りず、会員の中からもお手伝いいただき、子どもたちに“ならやま”を伝えることを主眼にしました。今回はカシノナガキクイムシの被害が目立っていることと、カシノナガの“撃退装置”の紹介もしました。これに対する子どもたちの興味はかなり個人差が大きいようでした。さまざまな種類のきのこも多いし、ただきれいな森ではない森も感じてもらえたと思います。鳥観の丘から大極殿を見てもらったが、お天気が良かったこともあり、みんな驚き喜んでいました。まつぼっくりの玉入れ、山のお話や昆虫あてクイズはやはり大人気でした。

その他の活動では、倒木がふえるなどで、今まで付けていた番号だけでは、その場所を特定して伝えることが難しいので、順次枝番をつけて場所の特定をやすくすることにしました。

当面は③~④の間に〈急な階段横に張ったロープ〉つける予定。これを機に今まで地図上ではあいまいだったコースも書き直し、新しいパトロール地図を作ることにしました。その為に現地を調べてみたところ、もともとの国土地理院の等高線図に多少の誤りがあることを発見。しかし、これは手を入れることは出来ないなのでこのまま置くことにしました。



月例研修会「高野山町石道を歩く」

担当 森 英雄 境 寛

天候は、「晴れ」で最高のハイキング日和となり、今回は歩くことが主体の例会で10人集まればと思っていたところ、8時30分には、健脚自慢の15人が集まり、上々のスタートになりました。定刻8時50分橋本行急行に乗車、車両は通勤と逆方向で会員だけの専用車の雰囲気です。「昨夜は飲み過ぎたので・・・」と和やかな雰囲気で車上の人になりました。

南海高野線九度山に10時過ぎに到着、手洗いを済ませ、足慣らしに丹生川沿いに慈尊院を目指して出発、途中真田庵で真田幸村親子の400年回忌を学習しセンダンの大樹を観察、10時50分に慈尊院に到着。



ここで、足元を固め、各自ストレッチをして百八十町の町石を見学、ハイキングのスタートを切りました。

しばらく樹林帯を進むと、可憐なホトトギスに和まされたり、渋柿の熟しをもぎ取ったりと和気あいあいと歩みを進めました。紀の川を見下ろす展望台で早目の昼食を取り、目的地に向かいました。柿畑と杉・檜の樹林帯の中を、「町石の順番が飛んでいる」とか、無人販売の柿を楽しんだりして歩くこと1時間強、六本杉に到着。休憩の後丹生都比売神社へ下り、太鼓橋で記念撮影、トイレと大休止をして、いよいよ後半の八丁坂の登りを二つ鳥居に向かいました。無事二つ鳥居に登りきり、



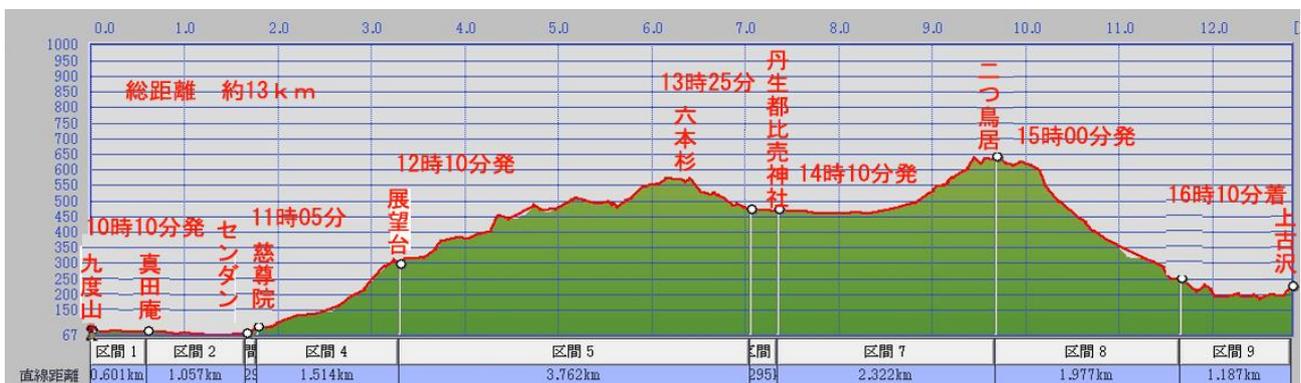
町石道

しばし丹生の村の展望を楽しんで、上古沢駅に向かって下山、急な峠を下り里近くでは、イノシシの捕獲檻を眺めながら4時過ぎに上古沢駅に到着、一息入れて車上の人になりました。途中一部体調不良を訴えるメンバーもいましたが、全員無事歩き通す事が出来ました。お疲れ様でした。

(境 寛)



二つ鳥居



10月・月例研修会一泊旅行

感動の「芦生の森」

日程：10月20日～21日

参加者：27名（男性17名、女性10名）

20日 数日前までの晴れマークが、直前に2日とも曇り一時雨の予報。天気回復を祈って出発。◇2時間弱で「常照皇寺」へ到着。早くも小雨がぱらついて来る。650年前に光厳上皇によって開かれ、歴代天皇の帰依を得た臨済宗禅寺。皇室ゆかりの寺だけに間取りの数も多く、広い。堂々たる雰囲気、静寂に包まれている。庭園には国の天然記念物九重桜もあり、印象深い寺院であった。◇次の「かやぶきの里」のお蕎麦屋さんで昼食。小雨は続いている。傘をさして地元のボランティアガイドの案内で、村内を散策。「日本の原風景」と云われ、連なるかやぶきの屋根が美しい。◇小休憩後、途中、宿のマイクロバスに乗り換えて、本日の宿の「芦生山の家」に到着。相変わらず外は雨のため、宿のご主人今井さんと明日ガイドをしていただく地元の木工業者である鈴木さんに、「芦生の森」の解説を小1時間していただく。◇「芦生の森」の約8割にあたる4,200haを、1921年(大正10年)に、京都帝国大学(文部省)が地権者より99年契約で演習林として租借。このため長く管理されて、原生環境に近い植生が残されてきた。

日本海側気候帯と太平洋側気候帯が接していて、植種が多様で巨木も多い。また、シカ、クマ、イノシシなど多くの動物も生息している。

◇お話の後、入浴して、夕食。地鶏の鳥すき。大盛り上がり。外は小雨が続いている。日頃から晴れ男と自負されている今回の幹事でもある川井さんが、「明日は自分の念力で雨が降らないようにする。」と挨拶の中で宣言され、喝采を浴びた。終わって隣室のロビーで直ちに二次会。ほぼ全員が参加されこちらも大賑わいであった。

21日 朝8時に2台のマイクロバスに分乗して、2名のガイドさん(昨日の鈴木さんと京大研究林事務官の長野さん)と「芦生の森」へ出発。

標高300mの「山の家」から同640mの「長治谷作業所」へ一気に上がる。天気は雲がうすく、遠くには何と青空もチラホラ。川井さんの念力、恐るべし。全員感謝！感謝！車中、日も照りだした。「トチノキ平」で途中下車して由良川沿いを15分程歩く。森の大きさ、深さ、美しさ(黄葉もかなり混じる)に圧倒される。樹齢300年の苔むしたトチの巨木の前で記念撮影。



車窓から芦生最大と云われるカツラの巨木(樹高38m、幹回り9.95m、樹齢300～400年)を観察。50分ほどで「長治谷作業所」に到着して、ここから「杉尾峠」まで3時間のトレッキング。平坦な道。すぐに杉の人工林。ツキノワグマによって樹皮をはがされた樹がある。中には穴の開いた樹もある。「野田畑湿原」を通る道の左側は原生林。さらにトチ、ブナ、ミズナラの大木の間を進んでいく。モリアオガエルの産卵池。熊の冬眠跡と云われるトチの大木の洞。ナラ枯れによって朽ちて倒壊したミズナラの巨木。この後、落葉の間からわずかに湧水がしみ出る「由良川の源流域」に出て、ほどなく本日の目的地「杉尾峠」(標高765m)に到着。日本海(若狭湾)、冠島、丹後半島等がかすんで遠望できる。昼食後、15分程下って、待機するバスに乗り「山の家」へ。帰路「ひよし温泉」で汗を流して午後5時30分に高の原駅前に帰着。

◇「大きな自然に感動した。」「初めての経験」「ガイドの説明が素晴らしかった」「川井さんの天気男は神話になった。感謝！」などが、参加者の感想であった。
(寺田 孝)



歴史研修会

秋津洲の道を訪ねる

9月24日に歴史文化クラブ研修会を行いました。当日は台風16号の影響で雨の心配もありましたが、歴史晴れ男の威力で一滴の雨にも見舞われず、21名の参加で無事完了しました。

行程は近鉄奈良駅→吉祥草寺→水平社博物館→神武天皇社→三光丸資料館→掖上罐子塚古墳→條ウル神古墳→日本武尊白鳥陵→孝安天皇陵→一言主神社→飯豊天皇陵→近鉄奈良駅で、生駒交通のバスにお世話になりました。

往路バスで川井代表から御所市の歴史について講義がありました。御所の地名の由来、難読地名の読み方、役行者所縁の吉祥草寺、役小角の母「刀良売」と金色の蛙、「蓮取り」行事など、1時間はアツと言う間で最初の目的地吉祥草寺に到着しました。

門前で集合写真を撮り、寺内を拝観しました。



金堂には役行者像や行者が使っていた錫杖(復元)などがあり、手にとって重さを実感していました。

柏原は差別の無い社会を目指した水平社発祥の地で水平社博物館を見学し、直ぐ横の神武天皇社を訪ねた。神武天皇が即位したのは橿原市ではなく、御所市の柏原だとする説があり、里の北西に143mの本馬山があり、神武天皇が腋上の嚙間(ほま)丘に登って、国見をしたとの説があります。

直ぐ近くに嚙間神社があるとのことで、探し回って漸く見つけました。



バスで三光丸資料館に向かいました。館長の浅見さんと2名の職員の方から資料館の案内をして頂き、後醍醐天皇の命名で「三光丸」となったお話しや丸剤の製造方法などを伺った後、美しいお庭で昼食を取りました。

5世紀から6世紀にかけてこの地域を支配していた豪族は、葛城氏、巨勢氏などで、彼らの王の墓と見られる巨勢山古墳群があります。

掖上罐子塚古墳は5世紀後半の大きな前方後円墳(150m)、條ウル神古墳は発掘が未了ですが大きな石室と8個の縄掛け突起を持つ家形石棺で有名、日本武尊白鳥陵(三重県亀山市の能褒野、御所市の琴弾原、羽曳野市古市、白鳥となってどこかへ飛び去る)、孝安天皇陵(第6代天皇陵と治定)などを巡りました。

秋津洲は日本の古来名(古事記や日本書紀)で、神武天皇が国見山から一望してトンボ(秋津)のようだと言ったことが由来とされています。

ここからはオプションで、彼岸花の咲き誇る一言主神社へ参拝しました。一言主は願い事を一言のみ叶えてくれる様ですが、皆さんは何をお願いされたのでしょうか。彼岸花と稔りの稲穂のコントラストがきれいでした。



負傷欠場の古川さんがご執心だった飯豊天皇(皇統譜には記載されていませんが、日本最初の女帝で第22代清寧天皇没後、第23代顕宗天皇即位までの10ヶ月間、政に臨んだ)の御陵・葛城埴口丘陵に参拝した。

女帝誕生の詳しい話を岩本先生から頂きました。

無事奈良に帰った後の反省会も大変盛り上がったとか。

(坂東久平)

歴史研修会

磯長谷の梅鉢御陵を訪ねる

10月8日(水)、台風一過すばらしい快晴のもと23名は商工会館前を出発した。バスは竹内峠を越え二上山西麓に広がる南河内郡太子町、近つ飛鳥の里に入って行く。のどかな田園は一面黄金色の稲穂に覆われ、収穫の終わったぶどう畑もここかしこに見られる。

この一帯は磯長谷と呼ばれる蘇我氏の根拠地で蘇我氏系の大王墳や豪族墓が30基ほど点在する「磯長谷古墳群」である。30代敏達、31代用明、33代推古、36代孝徳の4人の天皇と聖徳太子の5基の陵墓が梅の花の形で位置していて「梅鉢御陵」と呼ばれている。

敏達陵が天皇陵としては最後の前方後円墳となり、これ以降の大王墳は「方墳」を経て「八角墳」に変転する。

この墓制の変化は大王を頂点とする強力な中央集権国家形成を進める蘇我氏にとっては、大きな政治的意味があり、隋や高句麗の方形王陵を蘇我氏系大王の新しい形の王墓として取り入れた。

最初の訪問先「壺井八幡宮」で太子街人(ガイド)の会の加藤氏と合流する。この八幡宮は1064年源頼義・義家父子が造営したのに始まる。当時は清和源氏の棟梁河内源氏の総氏神であったが、頼朝が鎌倉幕府を開いて鶴岡八幡宮を源氏の総氏神としてからは、壺井に土着した石川源氏の氏神となった。

「源氏三代の墓」を訪ねる。河内源氏の菩提寺通法寺跡には2代目頼義の墓がある。初代頼信、3代目義家の墓は近くの小高い山の頂にあった。

再びバスに乗って「敏達天皇陵」を訪ねる。6世紀前半築造の前方後円墳。572年即位するが当時は仏教をめぐって崇仏派の蘇我馬子と排仏派の物部守屋が激しく対立していた時代であった。

葉室古墳公園の緑陰で昼食とする。3基の古墳があるが規模は大きく大王墳に近い。

葉室公園で昼食 ▼



「推古天皇陵」は黄金色の稲穂の田に囲まれている。二つの石室がある長方墳。広い磯長谷を見下ろす絶好の位置に築かれて

いる。死に際して「民が飢えている折、陵墓を作る勿れ。早逝した竹田皇子の陵に葬れ」と命じたという。竹田皇子墓の橿原市の植山古墳に追葬された後、この地に改葬された。

隣接する「二子塚古墳」はめずらしい双方墳。地元にはこれこそが本当の推古天皇と竹田皇子の合葬陵であるという言い伝えがある。

「科長神社」を訪ねる。延喜式にもある由緒ある神社で八社大明神ともいわれている。

「小野妹子墓」は科長神社前から124段の石段を登った平坦地にある塚。遣隋使として有名だが、華道池坊の道祖と言われている。

「叡福寺と聖徳太子御廟」を訪ねる。推古天皇が太子追悼を発願したことに始まり、後に聖武天皇の勅願により伽藍が造営された。2度の兵火により全山焼失したが再建され、江戸時代にはほぼ現在の姿に整備された。「聖徳太子御廟」は聖徳太子とその母穴穂部間人と妻膳郎女の合葬で(45m x 54m)の楕円墳である。

叡福寺南大門前にて ▼



最後に「近つ飛鳥博物館」で開催中の秋季特別展「箸墓以降」、仁徳天皇陵模型、などを拝観し帰途についた。5時前近鉄奈良駅に帰着した。

(中井 弘)

自然教室チームだより 帯解小学校

昆虫観察会 実施報告

「おばちゃん！バッタを捕まえたよ！虫かご持ってきて！早く早く！」「おっちゃん！ザリガニやカエルがいるよ！捕まえてもいい？」

元気な子供たちの声が休耕田や畦道のほうぼうから聞こえました。

9月24日(火)心配していた雨に降られることもなく、帯解小の昆虫観察会を実施することができました。児童27名に加え、サポーターの方々12名に参加していただき、初めての校外観察会となりました。

子どもたちはそれぞれ捕虫網を持ち、バッタやチョウ、テントウムシ、カマキリなどの捕獲に夢中になって挑戦しました。中には溝に落ちる子、こける子などもありましたが、それぞれ元気いっぱいでした。



昆虫採集が終わってからは図書室で収穫した昆虫の種類や数を班対抗で披露しあいました。

そのあとは昆虫を巡る楽しいクイズです。幼虫の眼はどこにあるかなどびっくりするような問題の連続で、これも班対抗で競い合いました。

子供たちの感想はみんな「昆虫採集が楽しかった」、「クイズが面白かった」といったものでしたが、主催者の皆さんも「子供たちが身近な自然に触れるとても良い機会だ」「虫を手で触らせる機会を是非増やしたい」といった感想でした。

こうした昆虫観察会がいろいろな小学校でできるようにすると良いのになと思った一日でした。

(倉田 晃)

『秋のめぐみだ！お伊モをほろう！』

ならやまの探検と芋ほり大会

10月18日(土)、台風一過、雲一つない秋晴れに恵まれ、恒例の芋掘り大会がならやまベースキャンプにて開催されました。今年は、午前に「ならやま探検」と「昆虫クイズ」を取り入れ、



ならやまの秋の自然を肌で感じて貰い秋のめぐみを実感して貰いました。

参加児童は、佐保台小学校の子供達を中心に1年生から5年生までの生徒28名。保護者、当会スタッフを含めると総勢91名の人が、ここならやまに集いました。

ならやま探検前後に実施された「昆虫クイズ」では当会の菊川さんがならやまに実際に撮影した昆虫の写真が使用され迫力満点。子供達も目を輝かせてクイズに興じてくれました。



「ならやまの探検」ではナラ枯れの状況をカシノナガキクイムシの実物と写真を添え説明。途中のポイントでは「松ぼっくりの玉入れ」で遊び「森のお話」を聞いて自然を守る事の大切さを感じてくれました。

午後からは楽しい芋掘り大会。各班に分かれて芋のつるの長さ、芋の大きさ、変わった形を競いました。ツルの長さ5.75m、重さは2.08kg、変な形はオットセイの様な形が1位を獲得し、全員に行き渡るように金ドングリ、銀ドングリ、銅ドングリと磨いたドングリの景品が配られました。

安全第一にみんなで楽しくをモットーに実施したイベントは、みんなの笑顔と満足そうな顔で幕を閉じました。「来年もまた有るの?」と聞いてくれた子供達の言葉でこちらの心も満たされました。



御協力頂いたスタッフの皆様、お疲れ様、本当に有難うございました。

安全第一にみんなで楽しくをモットーに実施したイベントは、みんなの笑顔と満足そうな顔で幕を閉じました。「来年もまた有るの?」と聞いてくれた子供達の言葉でこちらの心も満たされました。

御協力頂いたスタッフの皆様、お疲れ様、本当に有難うございました。

(辻本信一)

奈良県景観サポーターのならやま実習

10月2日、奈良県景観サポーターの受講者17名と県より6名のみなさんが、ならやまへ景観づくり活動体験にいられました。



既に「景観の概念」を学ばれ、第3回基礎講座として当会の活動に参加です。



午前中は里山林の景観整備の間伐作業で、4班に分かれ孟宗竹や雑木の伐採、解体の体験でした。初めての方もおられ里山での伐採の楽しさ・難しさや危険回避行動を熱心に実習してもらいました。

昼食時には、名物の味噌汁とスペシャルメニューのサンマの塩焼きに舌鼓をうって頂きました。午後からは景観活動についての意見交換会となりました。川井、阿部顧問に当会の発足から将来の夢まで大いに語って頂き、会運営の実務、資金繰り、準備、指導など多くの質疑がありました。新しく組織を立ち上げられた方もおられ皆さんに大変興味を持っていただけたと思います。



午後からは雨模様ため、3つ目のポイントであった、ならやまを散策しながら、里山整備状況や考え方についての説明ができなかったのが心残りでした。機会があれば木曜日にお出で下さいと声掛けをしました。

景観サポーターのみなさまの研修成果が生かされ、今後奈良県下各地域で景観づくりや推進役の活動が広がることを期待しています。

(事務局：塩本勝也)

花とみどりの楽校 (さとやま編)

さわやかな秋晴れの下、講座受講生18名来訪、生駒市役所担当者や運営委員スタッフと合流し[ならやまフィールド]で、里山の現地視察と間伐体験実習をされました。

「奈良・人と自然の会」スタッフは、山班を主体とした10名と会長・副会長が出迎え、オリエンテーション。10:00より第5地区に向かいスギ、ヒノキ間伐、他の作業体験を実施しました。



現地では杉山総括リーダーの解説・安全注意と共に、スギ(径30cm)の伐倒実演を大澤

リーダーが行い、その後3班に分かれ作業に入りました。細い木・太い木、其々の活用を考えた「玉切り」指導がなされ、皮剥ぎ、枝払い等の実習でした。「約20年超え」のスギは、1.2m~1.3mにもなる長い材ですから地響きを立てて倒されず。混みあっていたり、つる植物が巻きついていたり、素直にドーンと倒れるとは限りません。各班リーダーの指示に従って事故なく終了できました。横に枝を出せず、スギ・ヒノキに挟まれひょろりと伸びていたヤマザクラ(?)は、周囲に空



間ができ、全身で喜んでいるように見えました。今回は平地ではありましたが、足元の雑木や枯れ枝の除去

作業があり、ややきつめかな?と思う内容でしたが、皆さん其々懸命な作業、それでいて生き生きとされていたのは印象的でした。薪割り機やチルホールが見たいと要望があり、急遽実演、その威力にびっくりされていました。整備された観察路を周遊し、コーヒータイムで終了、満足の研修になりました。直接ご協力いただいたスタッフ、他の皆さん、そして日ごろの会員の皆さんの活動の積み重ねが好評を得たものと、紙面を借りまして感謝・御礼申し上げます。(阿部和生)

やさしい病害虫講座 7 ネットで害虫防御

木村 裕

9～10月頃、家庭菜園では寒冷紗を使ったネット栽培が良く目につきます。細い竹やプラスチック棒でドーム状に骨組みを作ったトンネル栽培です。何を栽培しているのかと覗くと、ハクサイ、ダイコン、カブラ、レタス、ネギなどが所狭ましと植えられています。なぜと質問すると、無農薬栽培をしているので虫がつかないよう被せているとのことでした。なるほどと感心したいところですが、内部のハクサイの葉には虫食い孔がいっぱいあいています。本当に効果があったのでしょうか？隣のおじさんがするから自分もと猿真似をしているような気がします。



網状になった布や寒冷紗で覆う栽培は、害虫がはいってこないのが無農薬栽培としては理想的です。ネットの中に虫がはいらなければ万々歳ですが、虫の方も生き残りがかかっていますのでなんとか潜り込もうと、おじさんの隙をうかがって入り込み、念願の卵を産みつけます。

ネットをいつ頃被覆するかがポイントです。播種から収穫まで網をかけたままで栽培するのが理想ですが、実際の場面ではありえないことですね。苗の間引き、草取り、水遣りなどの作業がありますから。

ネットは種を播いたときに張るのが基本で、芽が出てからでは遅すぎます。モンシロチョウは目ざとく青い葉を見つけてやってきます。しかもおじさんがお家で休んでいるときに。

苗を植えるときは、植えたら直ちにネットを張ります。ぐずぐずしていると卵をこっそり産

付けられます。もちろん、植える苗もネット下で育苗したものを使います。

すでに定植して日がたち、元気な苗では、張る前に1回だけ殺虫剤を散布し、虫を持ち込まないようにします。

ネット栽培の狙いは、葉っぱをかじって孔をあけるアオムシ、ヨトウムシ、葉に口ばしを突き刺して汁を吸うアブラムシの侵入を防ぐことです。しかしちょっとの油断から虫が入りこむと、ネットの中では餌はたっぷり、虫たちを悩ませる天敵もいないので我が世の春となります。その結果、ネットをしない場合より虫くい被害が増えることがあります。

苗の間引き、水遣り、除草などの作業は、ネットを最小限度開いて作業し、時間もできるだけ短くして虫が飛び込まないようにすることです。ネットを開いたまま、隣のおじさんとおしゃべりをしている人もちょいちょい見かけますが、虫を招待しているようなものです。たぶん、アオムシ・ヨトウムシ連盟から表彰状が届くことでしょう。

張ったネットは収穫直前まで取り外さないことです。通風のためか、裾の部分を少しあけているのをちょくちょく見かけますが、何のために覆ったのかを思い出しましょう。虫が気付かないと思ったら大間違いです。頭隠して尻隠さずでは。



鳥シリーズ 小田 久美子

ジョウビタキ

スズメ(14 cm)大の小鳥で、雌雄共に翼に白斑があるので俗に「紋付鳥」と云われます。頭上から後頭にかけて白い白髪の翁のようだ「ジョウ」。「ヒッヒッ! カッカッ!」が火打石を使うようだから「ヒタキ」。合わせて「ジョウビタキ(尉鷯)」と名付けられました。

畑や公園などでも人を怖がらず円らな瞳でこちらを見してくれます。樹上から飛び上がり虫を捕っては元に戻ります。昆虫・クモなどの動物食だけではなく、ピラカンサなどの木の実も大好きです。到着すると長旅の疲れも見せず「ヒッヒッ! カッカッ!」とご近所に挨拶回りをします。夏はアジア大陸東部・ロシアなどで繁殖し、日本には冬鳥として渡来します。

『フェアブル昆虫記』の鳥との思い出の中から。
(紙面の都合で文章を少し変えています。)

【小さいフェアブルはおやつに貰ったリンゴを大切に抱えて、彼にとっては世界の果てに思える向うの丘へ出かけた。丘の斜面を登って行くと、綺麗な小鳥が岩陰から飛び立ったのではと見ると、足元には羽毛と藁くずで出来た巣があり、中には六つの卵が綺麗に並んでいた。「しめた」と思った。「この綺麗な卵を、見つけた記念に一個だけ貰おう」と考えた少年は、つぶさないよう苔を少し敷いた手に卵を乗せ、つまずかないようにそりそりと坂道を登り切った時、司祭が散歩するのに出会ってしまった。彼はフェアブル少年が変な足取りで歩いて来るのを見ていた。そうして、「まずい」と思った少年が、背中に回した手の中に何かを隠しているのを見破った。「何を持っているのかな」と神父様が尋ねる。すっかりどぎまぎしたフェアブル少年は手を開き、苔の褥の上の青い卵を見せた。「おや、*ノビタキの卵じゃないか、いったいどこでこれを取って来たんだ」と、神父様の矢継ぎ早な質問に、他の雛が孵って翼に太い羽根が生える頃又行って巣の中にいるのを全部取るつもりを目論見も白状してしまった。神父

様は「そんなことをしてはいけない。鳥の親から雛を盗んだりするものじゃないよ。罪もない鳥の家族を大切にやりなさい。神様の小鳥が大きくなって、巣から飛び立つままにしておやり。小鳥は野の喜びです。地上から害虫どもを無くしてくれるんだよ。いい子になりたかったら、もう鳥の巣には手を出さないことだ」この場面は幼年時代の思い出なのではあるけれど、晩年のフェアブル自身の思想の表現でもあろう。】

フェアブルは昆虫だけではなく、幼いころから博物学者の目を持つ少年でした。

*ノビタキ…ジョウビタキと同じヒタキの仲間でジョウビタキと同じ大きさの小鳥。

秋の渡りの途中、平城旧跡のセイタカアワダチソウの上に沢山の群れが見られ、「青空と黄色い花と鳥」カメラマンに大人気の鳥です。

10/13、19号台風のさ中、山口県で「ジョウビタキ」の♀一羽が目撃されています。頑張れ〜!!

ジョー君は昨年ならやまに帰って来ませんでした。今年も別の個体が帰ってくれるのでしょうか。

20日頃「ヒッヒッ! カッカッ!」の挨拶を心待ちにしています。



ジョウビタキ♂



ジョウビタキ♀ (佐久川)



鬼と天狗の話

歴史文化クラブ
川井秀夫

今、子供たちの世界では妖怪ブームと言う。我々の少年期には四谷怪談、牡丹灯籠、番町皿屋敷など怪談に出てくる幽霊が、怖さ見たさに映画館へ足を運ばせた。いつの世にも仮想現実のキャラが存在するものだと興味が湧いてくる。

今回、この稿で役 小角と修験の世界をみてきたが、妖怪の仲間である鬼と天狗の存在は何んなのか、皆さんと考えて見たい。

鬼

現代人が抱くイメージは頭に角を生やし、牙が生えた大きな口、虎模様の褌を着けた畏敬のものである。古くは物の怪、荒ぶる神など目に見えないもの、また



餓鬼道に堕ちた飢えと渇きに苦しむ亡者や、地獄に堕ちた死者を責める鬼である。「百鬼夜行」と言うように人をさらったり、喰ったりする恐ろしい存在である。

一方、忌避される鬼と対照的に大江山の酒吞童子、桃太郎の寓話、大峰の前鬼・後鬼、また



節分の追儺、秋田のなまはげなど霊力を持つ修験者に服する鬼もいる。

鬼神・鬼武者など強く勇猛な人、鬼百合・鬼薊・鬼蓮・鬼っ子・鬼瓦など異形

のものを冠して呼ぶものも少なくない。

天狗

天狗のイメージはどうか。一般には赤ら顔で長い鼻を持ち高下駄を履き羽団扇を持った大天狗と背に羽を付け嘴をもった烏天狗・小天狗に分けられる。



天狗も人をさらい神隠しをするが、空中を自在に飛行する性格が強調される。もっと異なる点は清浄を好み、武士的・任侠的気質を持ち、修験道の霊山に住処を持つ。

室町時代は政治が乱れた時代、応仁の乱で都は疲弊し魍魎魍魎(ちみもうりょう)が跋扈し妖怪変化が人心を惑わす社会であったと言う。

司馬さんが記者時代に真言密教に興味を持ち、洛北の志明院(霊山の寺、験者の集まる処)で不思議な現象があると聞き、近くの宿舎で霊的な体験を随筆に書かれている。

夜、風が無いのに雨戸がガタガタと鳴り、石の当たる音が止まず恐怖を感じたと。

室町期、妖怪たちが追われてこの山中に逃げ隠れたと言う伝承があり、「天狗倒し」「天狗の礫」と呼ばれ、今なお信じられている

昔、昔、里人たちが山中に住む人を畏怖して鬼と称し、修験者を天狗と尊称を奉ったのでは。私はここにも、縄文人と弥生人の怨念がある様に思えてならない。

怖い不思議な話をしていると、秋気が寒さを覚える。お話はこの辺で、おやすみ。



墨彩画 (羽尻 嵩) 「深山孤高」

油絵 (永井幸次) 「大仏の鐘」

油絵 (有元康人) 「沖縄のシダ」

陶芸 (小島武雄) 「俱利伽羅紋猫」 (白土 土灰釉)

「眠り猫」 (赤土 白化粧仕上 青磁釉)



▲ 深山孤高



▲ 大仏の鐘



▲ 俱利伽羅紋猫



▲ 沖縄のシダ



▲ 眠り猫

縛られて松葉にすがる案山子かな 古川祐司

突然のトラブル。左足の損傷。一本足の療養生活。

丸で案山子の活き写し。神が呉れた人生の休養ですよ。

安静第一、回復を祈るや切。

新涼やギブスに馴れて朝の膳 古川祐司

ご不自由な嘆き節。この句にはもどかしさと、快方に向かう

喜びがある。この秋が恨めしい。我慢、我慢ですぞ。

まあいいか豊かな実り稲雀 阿部和生

実りの秋がまつ盛り。今年も豊作の便り。群れ雀の襲来も

許してやろうよ。「まあいいか」の措辞に諧謔味がある。

雀さんごゆつくり

噴煙の灰に紅葉の嘆きかな 阿部和生

不運な御嶽さんの災害、心が痛む。紅葉の景観も一瞬にして

暗転。私も御嶽の頂きに立った事がある。罹災の方々にとただ

合掌あるのみ。

後の月待ちつつ祝ふ長寿宴 鈴木末一

「後の月」は十三夜を指す。「のらの会」今年はそれぞれの

長寿を祝う。Aさん、Yさん女性の方からケーキと花束の祝福。

月も雲間からおめでとう。

傘寿らの宴の窓に十三夜 鈴木末一

傘寿・喜寿・古稀それぞれの節目に快気炎。窓辺の月も

びつくり、樽酒も瞬く間に空。月のウサギさんここまで

いらつしやい。叶はぬことの恨めしさ。



俳句の景

監修 川井秀夫

宮跡に萩のさざ波古都偲ぶ 羽尻 嵩

歴・文行事のひと駒でしょうか。古社のマガキに萩の花が群れる。

万葉歌には一番多く詠まれた花。古代の思いに浸る作者。

つるし柿露店の灯り暮れ泥む 栗本一代

夕暮れには縁日の屋台が活気づく。これも日本の風物詩か。

軒先のつるし柿が移りゆく秋を象徴する。短日の時の速さを

感じる抒情の一句。

額寄せそつとふれたき思草 栗本一代

思草はナンバンキセルの異名。主にススキの根に寄生する。

秋の季語。曾爾高原で観察した記憶がある。珍種でミクロで

観察すると面白い。

どこまでも鉄路を飾る彼岸花 八木順一

遠くへ続く鉄路には旅愁がある。この時季、真紅の花がお見送り。

ライダーマンの作者は縦横無尽、景色に見とれて事故に気を付けて。

推古陵四顧に稔りの稲の原 川井秀夫

推古帝は天皇の系譜では初の女帝。歴・文十月例会の一景。

四方は正に瑞穂の国、後髪を引かれる光景。振り返り、振り返る。

曼珠沙華かつらぎの野に護摩の燠 川井秀夫

「燠」(おき)は赤く熟した炭火のこと。一言社の周辺はこの花の

宝庫。宗教行事の護摩焚きをイメージした一句。

癒しの散歩道

惜別の晩秋



谷川 萬太郎

- ① 野原を駆ける木枯らしはさぞ寒かるに 先を急ぐ季節に戸惑う秋の仔羊たちよ
 迫りくる冬の足音を遮るように 寒風なびく草原は肩を寄せ合うように揺れる
 気が付けば静けき山里は人影も途絶え 話相手を失いし不憫な彼岸花の涙誘う
 あゝ懐かしや山人の声さえも何処に 誰をも知らぬ移りゆく季節の見知らぬ彼方へ
 小寒い風に揺れて泣く秋の儂さ抱き 惜しむ事さえ儘ならぬ心が切ない哀歌よ
- ② 秋を惜しみ囁くように縋る肩は寒かるに 愛しさ込み上げ駆け寄る野菊の花よ
 遠い山から吹いてくる風に灰かに匂う薄紫よ 素朴で可憐な野辺の花は心優しい
 季節の哀しみに出会うたびあなたを思い 素直な自分になれたらと小さな胸に
 行交う旅人の声はいつしか遠ざかる惜別の歌 あゝやがて訪れる故郷の冬景色よ

ならやま茶論

「百薬の長」

竹本 雅昭

樽： 杜氏から若草山が望める大広間で宴会があるから「今度はお前さんの番だ」と言われた時は、やっと来たかと嬉しかったね。

枡： そうですか我々も同じ思いで寄せて頂きやした。

樽： しかしちょっと残念なことに、一斗入るのに八升で接待してくれとの事で少々面子にかゝわるでな。

枡： まあまあ、お気持ちは分りますが皆さんはとっても明るく元気そうで、目出度く飲んで頂きやしょう。

樽： そうさな、米寿から古希迄今年迎えられた11人を含め全員で30名足らず。さあワシを空に出来るかな。

枡： 杉の香りでどんどんすゝめますわ。

姐さん萩： 逆さピラミッド型の重箱も美味でしょうが、私の釣った鱒の甘露煮も食して下さいな。

翁達： オー!! 何と美味でござることよ。

樽： 皆さん良く食べ良く喋ることよのう。あっちでこっちで“ウワァン” “ウワァン”と蜂の巣をつゝいたように。

枡： ほんまに、もしお向かいに志賀直哉先生が執筆されていたら「落ち着いて仕事ができん」とお嘆きでしょうな。

樽： それとも「わしも仲間に入れてくれ」と一升瓶下げていそいそかもね。

姐さん秋桜： 25回目の今回、十三夜の名月も雲に邪魔されて残念だけど、円い大きなデコレーションを用意してきました、どうぞ召し上がれ。

翁達： オー!! 美味しいでござる。

樽： おゝ丁度空になった。満足満足。

[のらの会より]



循環・再生していく里山を目指して

里山グループ

古都奈良の歴史的風土にふさわしい豊かな自然の形成、これがならやまプロジェクトのコンセプトであることに異論はないと思います。

このコンセプトを具体化していくうえで、我々は里山の生態系の保存と世代更新の確保という避けて通れない矛盾を抱えてきました。これへの現実的対応として、ならやま自然林（以下・自然林）は観察路の開削に止め手を付けないで保存、一方ならやま里山林（同・里山林）は古来維持されてきたいわゆる里山風景を目指して整備に着手してきました。里山林の現状は、枯損木、低層木の伐採等をほぼ完了し、凍結的保存をしてきた自然林とくらべ格段に整備されたといえます。

平成23年に「ならやま」の3つの計画が策定され、里山グループとしてはナラ枯れ問題が喫緊の課題として浮上し、今日までその対応に追われてきました。具体的には、まずコナラの毎木調査、被害木の伐採燻蒸、粘着剤の貼付によるカシナガの飛散防止、更には根本対策としての部分皆伐によるコナラ萌芽再生実験等を実施してきました。然しながら、今夏から状況は急激に悪化し燻蒸や飛散防止等の対象療法では如何ともし難い状態にきており、無責任にも聞こえますがもはや自然の摂理には抗い難く成り行きに任せざるを得ません。

そもそもナラ枯れの歴史は古く1930年代から発生の報告があり、その被害を受ける森林の特徴は比較的高齢で大径の樹木が多いといわれてきました。薪炭から化石燃料への燃料革命があつて以降、ほぼ半世紀にわたって広葉樹の世代更新がなされてこなかった結果、将にわが里山林もそのような森になってしまいナラ枯れの被害を受けているわけです。

今後は、対象療法から根本的な対策、すなわちコナラ老齢木を伐採し萌芽更新や植樹による世代更新を地道に推進していくことが肝要です。この作業は、コナラにとどまらずソヨゴやカシ等の常緑樹にも併せて行う予定です。

奈良県から管理・使用を任されている、ならやまプロジェクトの対象地は、当初の7㌔から今や16㌔に拡大しています。この内、里山林が5㌔、自然の森が4㌔あり里山グループを中心として維持・管理していくわけですが、面積とマンパワーの関係からして、やはり自然の森は従来の方針通り観察路を維持することに止め、里山林の根本的整備に集中的に取り組んでいきたいと思っています。

その伐採・更新をしていく方法論ですが、一つはエリアを区切って皆伐し萌芽更新を期す方法と、いま一つは老齢木を中心に間伐していく方法があります。既に実験的に実施した皆伐エリアにあっては、一部で萌芽がみられますがこれが成木として育つかどうかは、今後数年の経過観察が必要です。また、古都保存法では、森林の皆伐は妄りにやってはならないこととして事前に県知事に届け出て認可を得なければならず、その届出時における有力な証明となるべき萌芽実験の成果を待っている余裕はありません。そのため、皆伐も間伐もいずれも伐採することには変わりはないので、当面は間伐から作業を進めていきたいと考えています。

また里山林の世代更新において今後の作業で忘れてはならないことに、落葉広葉樹の苗の植樹があります。伐採と並行して植樹を進めていくには、我々の知識・経験をさらに積み重ねていく必要があります。我々が目指す「秋の夕日に照る山紅葉（もみじ）」と唱歌にも歌われた、いわゆる里山の原風景、古都奈良の歴史的景観にマッチした里山作りは、20～30年後に成果を見せるものであり、我々としてはそこに至るルールを敷きかつそれを継続実施していく後輩を育成していくことが出来ればと考えています。先は長く、課題の多いことではありますがボランティアとして安全を最優先に、明るく！元気に！楽しく！無理をせず！会員の皆様と共に取り組んでいきたいと思っていますので宜しくお願いします。（文責・杉山耕二）



ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理せず・諦めず

活動予定日

11月	6 (木)	13 (木)	20 (木)
	27 (木)		
12月	4 (木)	11 (木)	18 (木)
	25 (木)		

- ◆ 場所：奈良市奈良坂町・佐紀町の県有林 [ならやま会館前道路(ならやま大通り)の南側に広がる里山林地]
- ◆ 集合：現地ベースキャンプ地・午前9時
- ◆ 終了予定：午後3時

◆ アクセス

- ① JR平城山駅下車：東口から南へ徒歩10分
 - ② 近鉄奈良駅：バス13番乗場 115系統
8:28発 高の原行 (平日)
 - ③ 近鉄高の原駅：バス1番乗場 115系統
8:36発 JR奈良駅西口行 (平日)
- ②③とも「佐保台西口」又は「平城大橋」下車 徒歩7分

- ◆ 携帯品など：弁当、飲み物、軍手(作業用具は、現地で用意)



- ◆ 環境保護のため、お椀、箸、コップなどは各自ご持参ください。

- ◆ 連絡先：木村 裕

11月6日

<里山 Gr>

第5地区の里山・竹林整備
薪材(40cm)の玉切り・薪割り



<エコファーム Gr>

玉葱・豌豆畑準備 日野菜などの間引き
牛蒡収穫 サツマイモ跡地整備(糶摺り)
蕎麦：刈取り・ハサ掛け・第5地区脱穀と乾燥

<景観 Gr>

BC付近の草刈り 蕎麦刈取り手伝い
枯れマツの処分地整備 寒咲花菜移植
デージー移植 時計草剪定 池の整備

<エコファーム Gr>

堆肥作り 水田除草対策(草焼機の活用)
蕎麦根の引き抜きなどの後処理
果樹周辺部の草刈り
菊畑の作成

<景観 Gr>

彩りの森草刈り
山野草園の草取り整備・施肥 池の整備



11月13日

<里山 Gr>

第5地区の里山・竹林整備
薪材(40cm)の玉切り・薪割り



<エコファーム Gr>

玉葱植え付け 豌豆の播種
早川畑など蕎麦脱穀と乾燥 全体の果樹調査

<景観 Gr>

蕎麦刈取り手伝い チューリップ植え込み
ジャーマンアイリス園草取り 水生生物調査
池の整備 19日刈払機安全講習(予備25日)

11月27日

<里山 Gr>

第5地区の里山・竹林整備
薪材(40cm)の玉切り・薪割り

<エコファーム Gr>

新蕎麦祭り
果樹の枯死木等の補植・施肥



<景観 Gr>

(蕎麦祭りの手伝い)
カンナの植え付け 花生姜伐採 水生生物調査





行事案内 part 1

「新蕎麦祭り」のお知らせ!



「新蕎麦」の季節がやってきました。

今年もならやま第5地区、BC周辺等で蕎麦を栽培し、しっかり実を付けています。皆様のご協力で、畑作り、種まき、刈取り、乾燥・脱穀と手塩にかけて蕎麦の実が出来上がります。

当日は、早朝から「そば文化クラブ」の会員が、日頃の習練の腕によりをかけて、打ち上げます。正真正銘のならやま産、「挽き立て、打ち立て、茹で立て」の「三立て蕎麦」を皆様にご賞味いただきます。今年は新しくできた「あずまや」でデモンストレーションとして、会員のそば打ちもご披露します。関係者一同、大いに張り切っています。どうぞご期待ください。

☆日時：11月27日(木) 12時～1時

☆場所：ならやまBC 参加費 300円

・数量限定持ち帰り用(2人前 500円)

・お椀、箸など各自ご持参ください。

ならやま・そば文化クラブ 寺田 孝

歴史 11月研修会



額田王の生涯を訪ね忍阪・多武峰街道を巡る

激動する7世紀中頃の東アジア情勢の下、律令制国家をめざし、変革と抗争を続けた飛鳥時代中期を鮮やかに生きた女性、宮廷万葉歌人「額田王」の生涯を訪ね、忍阪・多武峰を巡ります。

「忍阪」は、古くは神武紀に「忍坂伝承地」として、また5世紀には、近江の古代豪族息長氏の血を引く忍坂大中姫の「忍坂宮」(5世中頃の允恭天皇皇后)にも登場します。さらに、この地に御陵のある舒明天皇は、息長氏系の母広姫と、父忍坂彦人大兄皇子の子で、その諡号も「息長足広額」と、近江の豪族「息長氏」との深いつながりがうかがえます。

また、額田部氏の祖(天津彦根命)を祀った生根神社があり、額田王が養育され、晩年には夫の

11月・月例研修会 甘樫丘の自然観察会

11月の月例研修会は明日香の甘樫丘に行きます。自然と歴史の両面から魅力ある甘樫丘で自然観察を楽しみましょう。多数の皆様のご参加をお待ちしています。

1. 日時：11月18日(火) 10時～15時

2. 場所：甘樫丘⇒歴史公園館⇒近鉄・飛鳥駅

3. テーマ：木の実を見つけよう!

いろいろな木の実があります。

いくつぐらい見つかるか

みんなで張り切って

探しましょう



4. 持参物：昼食、飲み物、雨具

観察用具、(あれば植物図鑑も)

5. 集合：9時35分 近鉄・橿原神宮前駅東口

『奈良交通バス 東口2番乗り場 23系統

9時41分発 飛鳥駅行き』 に乗ります。

なお、電車の便は

*西大寺8:38発(急行)9:11着 又は

*西大寺8:54発(普通)9:33着…この場

合は駅に着いたら走ってください。

6. 担当：自然教室チーム・倉田、辻本

遺志を受け継ぎ、栗原寺の完成とゆかりのある人々の菩提を祈りながら静かに過ごした地ではないかと言われています。

舒明天皇陵、鏡女王墓、栗原寺跡を巡った後、多武峰の談山神社の紅葉を楽しみます。

《行程》

8:30 近鉄奈良駅(中小企業会館前)⇒舒明天皇陵⇒鏡女王墓⇒大伴皇女墓⇒石位寺⇒栗原寺跡⇒倉橋溜池ふれあい公園(昼食)⇒談山神社⇒飛鳥資料館⇒近鉄奈良駅前(17:00頃解散予定)

《実施要領》

・日時：11月11日(火) 8:30 集合

・場所：近鉄奈良駅東 中小企業会館前

・参加費：3,000円(別途拝観料)

・定員：27名

・世話人：杉本、藤田、坂東

・申込先：歴史事務局 古川祐司宛

行事案内 part 2



12月例研 秋季ハイキング予告

紅葉の「源氏の里 宇治」を歩く

世界遺産「宇治上神社」、宇治市名木 100 選に選ばれている「いろはかえで」の群生地「もみじ谷」、今年修復復元が完成した世界遺産「平等院」など宇治の中心部を巡ります。

「宇治橋」を通過して、宇治川沿いはもみじがいっぱいです。紅葉の見頃は例年 11 月中旬以降 12 月初め頃までと云われています。

終了後、同日行われる『今年度忘年会』会場へご案内します。

1. 日 程 ; 12 月 8 日(月) 「忘年会」併催

2. 集 合 ; 近鉄京都線大久保駅前 9 : 10

☆往きは、近鉄大久保駅前から京阪バスで 10 分ほどの JR 宇治駅前へ行く予定。帰路は、

JR 宇治駅から JR 奈良駅へ出て忘年会会場へ。

※詳細は、会報 12 月号でお知らせします。

担当幹事 ; 山中筈子 塩本勝也 寺田孝



忘年会のご案内

今年もいろんなことがありました。本当に多くの活動に皆さんで頑張ってくださいました。

12 月例研に引き続いて忘年会を開催いたします。

皆様、是非ご参加ください。

1、日 時 : 12 月 8 日(月) 17:00~20:00

2、場 所 : 奈良ロイヤルホテル
奈良市法華寺町 254-1
TEL.0742-34-1131

3. 交 通 : 近鉄奈良駅(16:10)、JR 奈良駅(16:30) のホテル専用シャトルバスをご利用ください。

4、会 費 : 4,000 円 (予定)

5、担 当 : 塩本勝也

詳細についてはお問い合わせ下さい。



☆☆☆ 12月歴文研修☆☆☆

① 大古事記展鑑賞

語り継ぐココロとコトバ
五感で味わう、愛と創造の物語
バラエティー豊かな展示物により、『古事記』の豊かさを心ゆくまで味わいましょう。そして『ココロとコトバ』を読み解き、未来をよりよく生きるヒントを探してみましょ。



② 佐保路深掘り歴史探訪

茶礼祖・村田珠光所縁の日輪山称名寺と不退寺(業平寺)を訪れます。

③ 座学研修 講師未定(午後に予定)

◆月日 : 平成 26 年 12 月 13 日 (土)

◆集合 : 近鉄奈良駅前・行基菩薩像

※ 座学研修場所 : 佐保川地域ふれあい会館

※ 詳細は、12月号に掲載します。

ならやま名物 芋煮会のご案内

日 時 : 12 月 11 日 (木) 正午~

会 費 : 無料 (アルコール類ありません)

場 所 : ならやまベースキャンプ

持ち物 : お椀・コップ・箸など



今年も感謝祭として芋煮会を盛大に行います。ならやまで収穫した野菜を使った芋煮と黒米を混ぜたおにぎりを味わってください。会員の皆さんの参加お待ちしております。

問合せ : エコファーム G 富井忠雄

? & ? 奈良学クイズ ? & ?

【問】写真の仏像名と国宝・重文の区別、



所蔵寺院名をお答えください。

応募締切

11月3日(月)

応募方法

広報のメール又は

FAX

※火災の時、自ら焼

損を免れたという伝承あり・・・。

平成 26 年・10 月度幹事会報告

- ◆日 時：平成 26 年 10 月 7 日 (火) 17:00～19:20
 - ◆場 所：奈良市中部公民館
 - ◆出席者：幹事 17 名、顧問 2 名
 - ◆案 件：
 - ①会長挨拶
 - ・10/2 東京で 2013 年 GG プロジェクトの報告会があり、当会は引き続き 2014 年 GG プロ助成の適用団体となった。
 - ②会員動向、会計報告 (会員は 150 名)
 - ③月例研修会、自然教室、イベント等の活動報告
 - ・10/2 奈良県：景観サポーターを受入した。
 - ④ならやま：9 月実績報告、10 月度活動予定
 - ・9 月度の活動参加者が前年同月より減少した。
 - ・機材保管テント 2 張目と第 3 駐車場の整備。
 - ・11 月に草刈機の安全講習会を実施する。
 - ⑤新春講演会の講師とテーマ選定
 - ・1/24(土)京大名誉教授 田中克先生に決定
 - ・10 年会員表彰は 5 月総会時に実施する。
 - ⑥11/1 まごころプロジェクト自然学習に参加。
 - ⑦林野庁交付金事業の進捗状況について
 - ・9/22 今年度採択分について減額申請をした。
 - ⑧ネイチャーなら 10 月号の編集について
 - ・HP：会員専用ページの開設に向け検討。
 - ⑨10～12 月の行事予定の確認、その他
 - ・2 年目の GG プロの実施担当幹事を決めた。
- 以上

新春講演会予告

平成 27 年新春講演会は、下記の予定で準備を進めていますのでお知らせします。(詳細は 12 月号)

日時：平成 27 年 1 月 24 日 (土) PM 2:00～

場所：奈良市三条通り・中部公民館(予定)

人数：60 名程度(友好団体へも働きかける)

講演：京都大学 田中 克 先生
 さまざまな領域の知見を結び付ける。

～人と自然を紡ぎ、持続可能社会を見据える～

「森里海連環学」 森⇄海、

東北気仙沼,九州有明海のお話し等

◆ 申し合わせ ◆

- ※ ならやまでのプロジェクト活動やイベントは、前日午後 7 時前の NHK TV 天気予報で奈良県北部の降水確率が午前 60% 以上の場合は、中止になります。
- ※ 通常活動日【木曜日】が、雨天等により中止になった場合、翌日【金曜日】を臨時活動日とします。

ペン画に寄せて 境 寛

大阪人にとっては、庶民的な繁華街として親しまれてきた新世界ですが、ターミナル駅に恵まれなかったことや観光の多様化などに伴い、長らく低迷が続いていました。昔のジャンジャン横丁などを知る私にとっては、最近はずいぶん変わってきており、串かつや、TV「ふたりっこ」などで認知され、若い人や家族連れを見るようになりました。



今年のサツマイモは、上級品。1 個が 2kg 以上のもものも。形も良く粒ぞろい。土壌改良と夏場の天候にも起因しているのでしょうか。会員の皆様の情熱に応えてくれたのかも・・・。「ならやま」へお越しく下さい。市街地に隣接する里地里山がお待ちしています。(里山人)



会報誌[ネイチャーなら]・第154号

発行：奈良・人と自然の会
 会長 藤田 秀 憲
<http://www.naranature.com>



編集チーム代表：鈴木末一